



よし、やってやろうじゃないか！

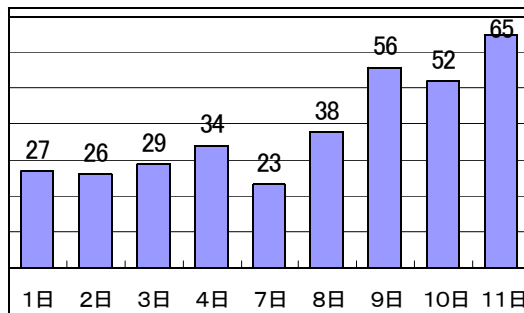
『トリプルT』の取り組みが始まってから2週間（9日間）が過ぎました。しかし・・・

「遅刻ゼロの日」は、未だにありません。そんな中、1年全クラスと2-2はパーフェクト継続中です。

「チャイム着席オール◎の日」は、3-1と3-2が6日間達成していますが、0日の学級もあります。

「全クラス12時25分までに給食運搬完了」は、2日間達成しましたが、なかなか続きません。

しかし、「あいさつ運動参加者」は、右のグラフのように右肩上がりです。右のグラフのように右肩上がりです。現在、350人で目標の500人をはるかに超える勢いです。



下の文章を読んでください。内容や規模こそ違うものの、ひとつの成果を上げようと全校生徒が一丸となって取り組んでいることは同じです。そして、一人一人の「よし、やってやろうじゃないか！」という気持ちが記録につながっていることがわかります。私たちも、ぜひ見習いたいものです。

平成6年、20世紀最大級の大渇水の年であった。この年、私は綾南中学校にいた。連日の燃えるような酷暑の中で町民の焦燥感毎日深まり、その暮らしにも深刻な影響が出ていた。（中略）

私たちは次のように考えていた。「これは、絶好のチャンス。この百年に一度の苦難を八百人の生徒を核として乗り切ってみよう。私たちは“ともに生きる”ことを旗印とする学校なのだから」と。そして、教職員や生徒たち、それに保護者との話し合いを重ね、一つの行動目標を定めた。7月5日。私たちは全校生徒集会を開き、次のように訴えた。「みなさん。20世紀最大級のこの渇水は、私たちの日頃の取り組みの成果と実力を試す天が与えてくれた絶好の機会なのだ。現在、綾南町上水道の1日の給水量は7000トンほどです。もし、あなたが、自宅のお風呂を1日おきにするか、水量を10センチほど下げるだけで数百トンの節水になるのです。一人の力は小さい。しかし、みなさんが、ともに立ち上がれば、きっと町の給水量は目に見えて減少するはず。1日、7000トンの給水をどれほど少なくできるか、明日からやってみようではありませんか」

集会を開いた次の日の給水量は500トン減った。また、1日の給水量が7000トンを超えた日が、6月1日から7月5日までの35日間では11日(31%)あったのに対して、最も水を要する7月6日から8月末までの57日間では、わずか2日(3.5%)になった。そしてこの年、綾南町では、県内では珍しく1時間の断水もなく、百年に一度の大渇水を乗り切ったのである。

いかようにも高邁な教育目標や教育理論も、生徒たちが「よし、やってやろうじゃないか！」と決意を固め、具体的な行動に移らない限り画餅に終わるということを、そして、そのような決意を固めさせることにこそ教育専門家としての力量と喜びがあるということを教えてくれた思い出深い取り組みであった。

※「教育のひろば」(6.10香川県教育県民会議発行)における作花典男氏の文章から抜粋

今、学校では・・・

- ◆ 大下歯科から学校までの道路を「タートルストリート(カメ太郎通り)」と名付け、マナーアップゾーンとしています。ほとんどの生徒が1列通行を意識して登校できています。すばらしい！
- ◆ 6月10日、「よい歯の審査会」が行われ、藤戸心貴君と宮崎葵さんが出場しました。藤戸君は2位という名誉に輝きました。
- ◆ 6月11日、「社会を明るくする運動」弁論大会が行われ、中野加恵さんが出場しました。「大好き、大浜」というタイトルで落ち着いて堂々と意見を発表してくれました。
- ◇ 6月16日、1・2年生の貯金日です。JAから、貯金の封筒に金額を記入するように依頼がありましたので、記入されていることを確認して提出してください。

